

令和6年度 白山市の女性活躍推進に 関わる実態分析報告

研究代表者

齊藤実祥^{※1}

研究分担者

寒河江雅彦^{※2} 平子紘平^{※1}

小竹由夏^{※3} 岩脇芽生^{※4} 松本莉奈^{※4} 吉尾知佐子^{※4}

^{※1}金城大学 総合経済学部

^{※2}金城大学 総合経済学部・金沢大学 融合研究域

^{※3}金沢大学大学院 人間社会環境研究科

^{※4}金沢大学 人間社会学域 経済学類

研究背景と目的

- ▶ 齊藤・寒河江・平子(2023)「女性活躍の推進に関する調査」で、石川県白山市において共働き率の高さに反し家事・育児時間が女性に偏っていることが明らかになった。
- ▶ 本研究では、女性の仕事と生活における実態と問題点について、
 - 既存統計資料からの地方における家事関連時間・就労環境分析
 - 白山市民を対象とした女性向け・企業向けアンケート分析から多面的に深掘りし、女性活躍推進における課題の整理を行う。

既存統計資料からの地方における 家事関連時間・就労環境分析

令和6年度 白山市の女性活躍推進に関わる実態分析報告

2025/3/24

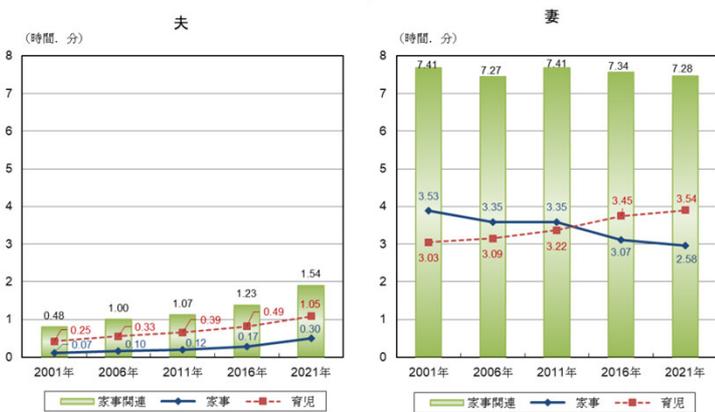
3

男女別の家事関連時間推移

- ▶ 2021年では夫の家事関連時間が約2時間で、増加し続けている
- ▶ 一方、妻の家事関連時間は約7.5時間で横ばいのまま

図1 夫・妻の家事関連時間の推移（調査票 A による結果）

（2001年～2021年）－週全体平均、6歳未満の子供を持つ夫婦と子供の世帯



出典：総務省「我が国における家事関連時間の男女の差」

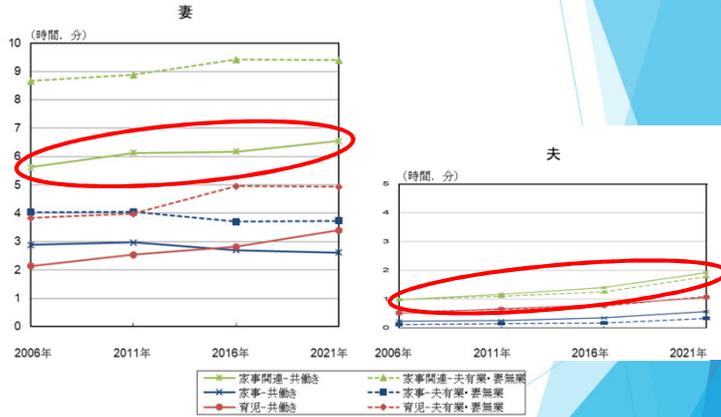
令和6年度 白山市の女性活躍推進に関わる実態分析報告

2025/3/24

4

男女別の家事関連時間推移(共働き世帯)

- ▶ 共働き世帯では、夫と妻ともに家事関連時間が増加し続けている
- ▶ 家事関連時間について、夫の時間が増加しても妻の時間は減少していない



出典：総務省「我が国における家事関連時間の男女の差」

男性の家事関連時間ランキング

- ▶ 石川県は全国最下位
- ▶ 石川以外の北陸は新潟県2位、福井県6位、富山県29位
- ▶ 男性が家事にかける時間で、新潟県は石川県の約2.5倍

順位	都道府県	家事関連時間*
1	奈良県	2時間35分
2	新潟県	2時間33分
3	高知県	2時間27分
6	福井県	2時間17分
15	愛知県	1時間58分
20	東京都	1時間54分
29	富山県	1時間44分
32	大阪府	1時間42分
⋮	⋮	⋮
47	石川県	1時間
	全国平均	1時間54分

出典：総務省「令和3年社会生活基本調査」

(*) 6歳未満の子供がいる夫の「家事」、「介護・看護」、「育児」及び「買い物」の合計

共働き率ランキング

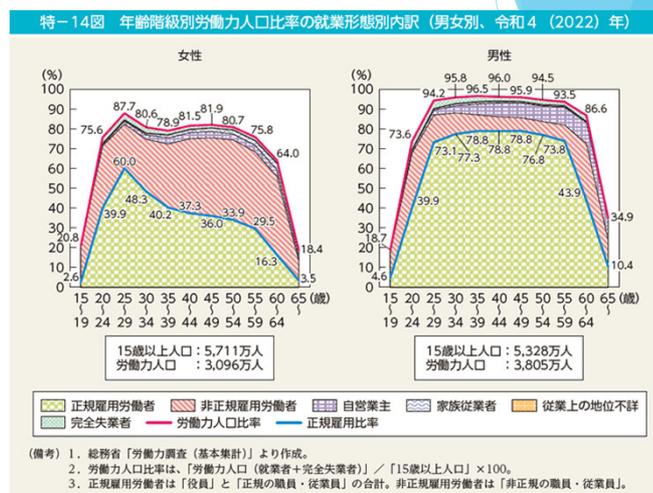
- ▶ 石川県は全国7位
- ▶ 石川以外の北陸 (福井・富山・新潟) も全国トップ10入り

順位	都道府県	共働き世帯割合(2020年)
1	福井県	59.0%
2	山形県	58.1%
3	島根県	56.7%
4	富山県	56.5%
5	佐賀県	55.4%
6	鳥取県	55.3%
7	石川県	55.2%
8	長野県	55.1%
9	新潟県	54.6%
10	岩手県	54.1%

出典：総務省「2020年度国勢調査」

男女別の就業形態内訳

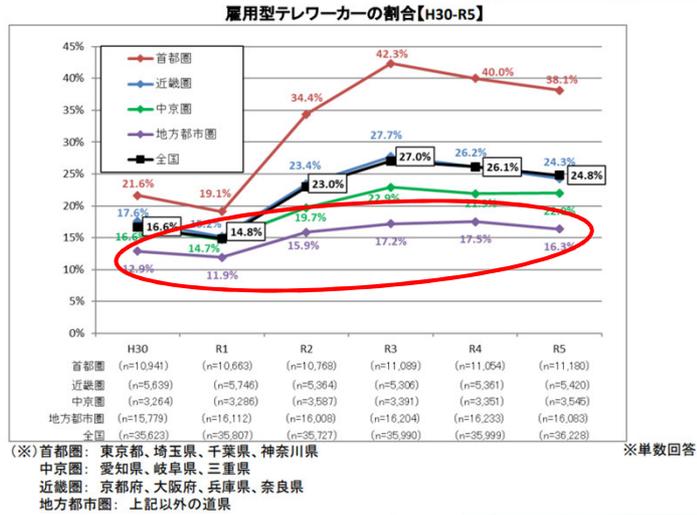
- ▶ 女性のM字カーブ傾向は解消されつつある
- ▶ 女性のL字カーブ問題(30歳頃を境とした正規雇用率の低下)は依然残る
- ▶ 女性の就業形態は正規雇用から非正規雇用へ変化する割合が高い



出典：総務省「労働力調査」

テレワーク率

- ▶ 地方都市圏では15%前後で推移している
- ▶ 新型コロナ流行で首都圏はテレワーク率が大きく増加したのに対し、地方都市での伸び率は低い

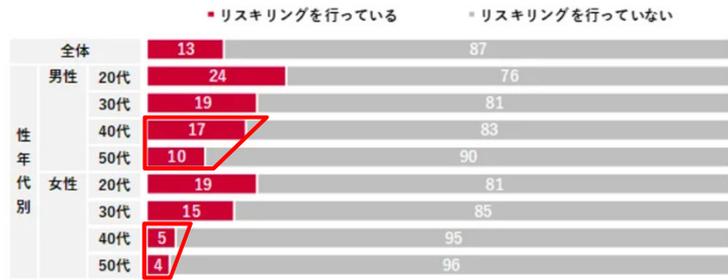


出典：国土交通省「令和5年度 テレワーク人口実態調査」

男女別のリスクリング率

- ▶ 男女のリスクリング取り組み率を比較すると、40代で男性は17%、女性は5%
- ▶ 40代と50代で、男女で大きな差が見られる

▼リスクリングの取り組み率 (%)



出典：株式会社ロイヤリティ マーケティング(2023)「プレスリリース：注目のリスクリングに関する調査を実施」

白山市民を対象とした女性向け・企業向け アンケート分析

令和6年度 白山市の女性活躍推進に関わる実態分析報告

2025/3/24

11

白山市の基本情報

- ▶ 人口：112,524人
 - ▶ 世帯数：46,868世帯
 - ▶ 世帯増減率(2020年比)：+3.02%
 - ▶ 平均年齢：47.0歳
-
- ▶ 通勤・通学者の約3割が金沢市に通うベッドタウン
 - ▶ 県内トップクラスの工業都市

若々しい
地方都市



令和6年度 白山市の女性活躍推進に関わる実態分析報告

2025/3/24

12

白山市アンケート調査結果の概要

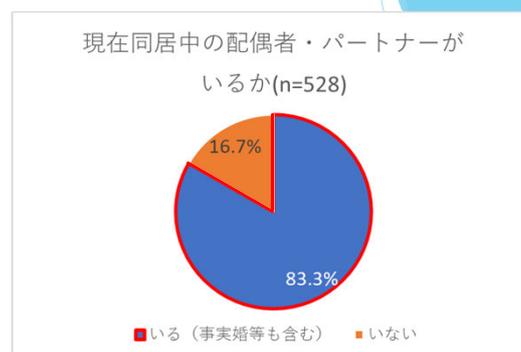
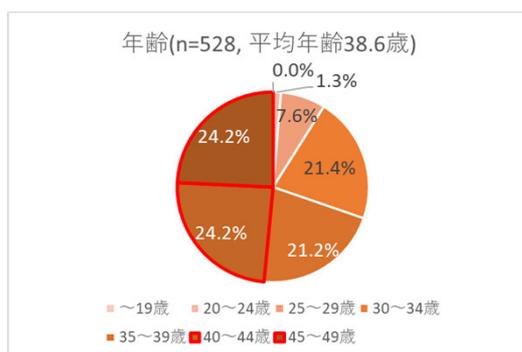
	女性市民向け	企業向け
目的	女性の労働・生活の実態調査	企業側の意識や制度等の実態調査
対象	白山市在住の18～49歳の女性	白山市内の企業
実施方法	Webアンケート	Webアンケート
周知方法	白山市の公式LINE	白山商工会議所経由でのポスター配布及び白山市経由での依頼状郵送
調査期間	2023/12/20～2025/1/5	2024/9/8～12/20
回答者数	528票 (2024年度：381、2023年度：147)	39票

令和6年度 白山市の女性活躍推進に関わる実態分析報告

2025/3/24

13

女性市民向けアンケート回答者の基本属性(1)



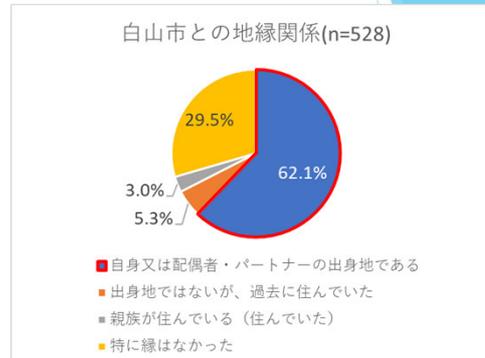
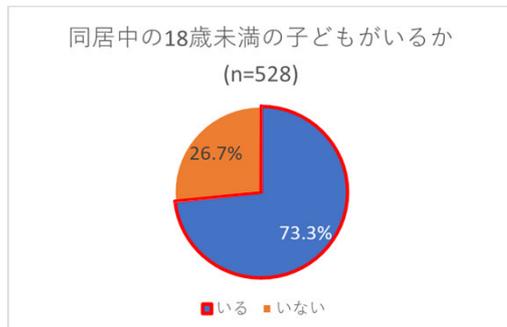
- ▶ 年齢分布として、40代が48.5%で約半数を占め、平均年齢は38.6歳と推定される。
- ▶ 同居中の配偶者・パートナーがいる人は83.3%である。

令和6年度 白山市の女性活躍推進に関わる実態分析報告

2025/3/24

14

女性市民向けアンケート回答者の基本属性(2)



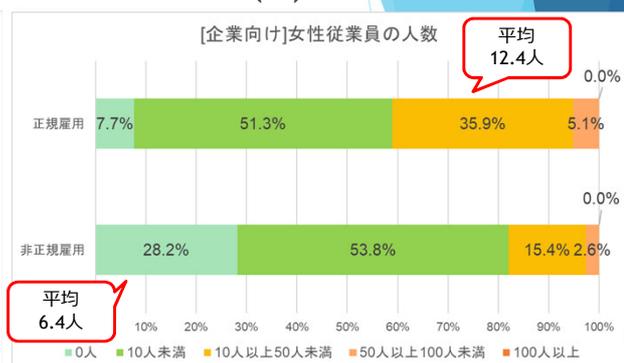
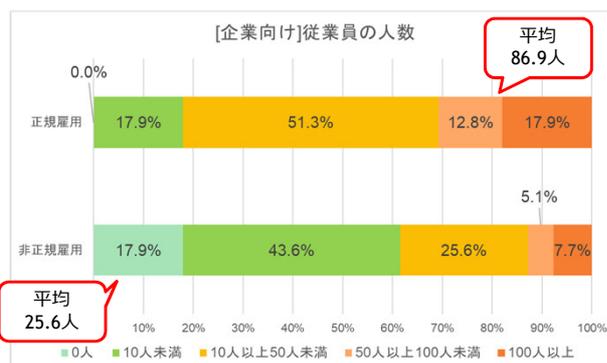
- ▶ 同居中の18歳未満の子どもがいる割合は73.3%であり、多くが子育て世帯である。
- ▶ 白山市との地縁関係は、「自身又は配偶者・パートナーの出身地である」が62.1%で最も高い。
- ▶ 一方で、「特に縁はなかった」が29.5%で、約3割を占める。

令和6年度 白山市の女性活躍推進に関わる実態分析報告

2025/3/24

15

企業向けアンケート回答者の基本属性(1)



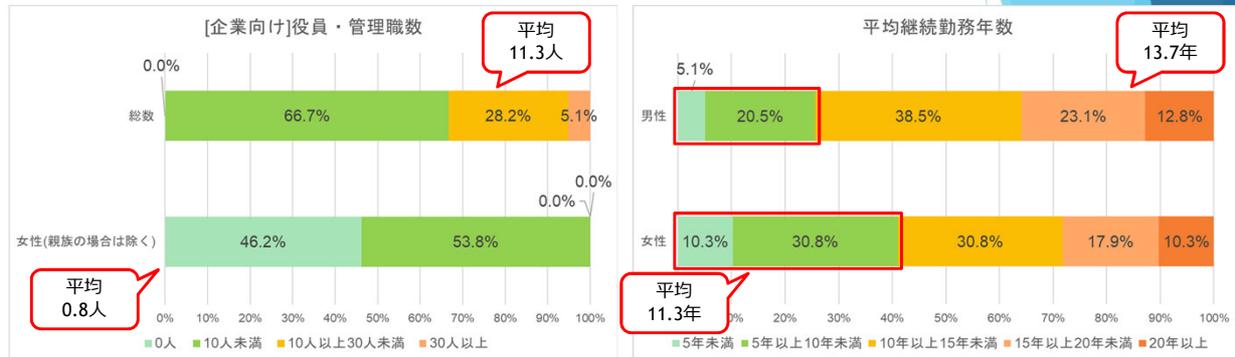
- ▶ 平均で見ると、従業員に占める非正規雇用の割合は約3割である。
- ▶ 平均で見ると、女性従業員に占める非正規雇用の割合は約5割である。

令和6年度 白山市の女性活躍推進に関わる実態分析報告

2025/3/24

16

企業向けアンケート回答者の基本属性(2)



- ▶ 平均人数で見ると、役員・管理職(総数)は11.3人であるのに対して、女性は0.8人である。
- ▶ 平均継続勤務年数が10年未満の割合は、男性が25.6%であるのに対して、女性は41.1%である。

女性活躍推進のために解消すべき課題

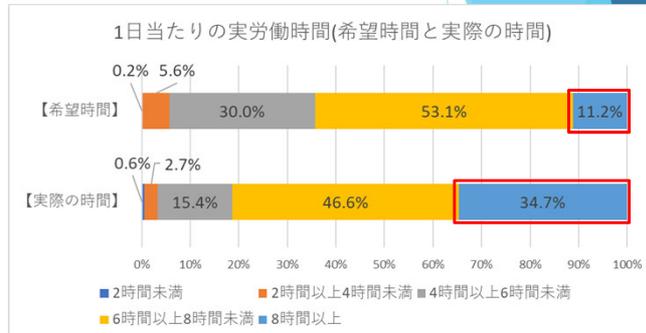
- ▶ 女性向け・企業向けアンケート結果の分析からは、女性活躍を推進する上での3つの課題が明らかになった。

課題① 家事・育児役割の女性への偏り

課題② 労働時間と労働形態の柔軟性の低さ

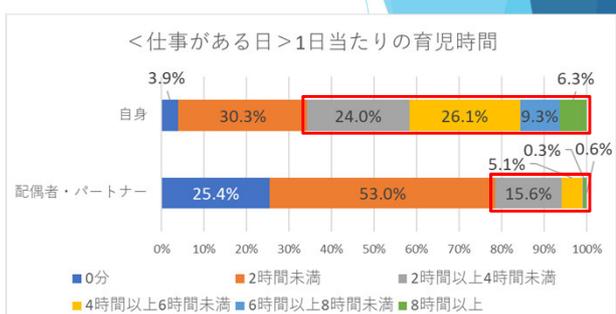
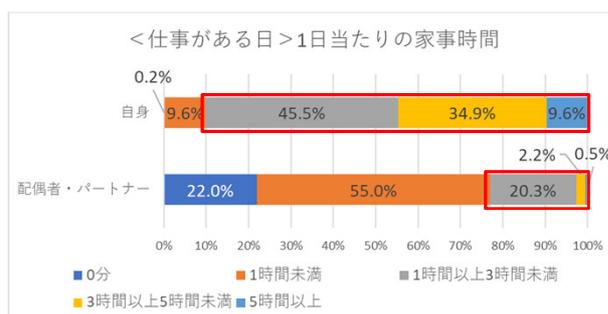
課題③ 女性が継続して社会で活躍する環境の未整備

課題① 家事・育児役割の女性側への偏り(1)



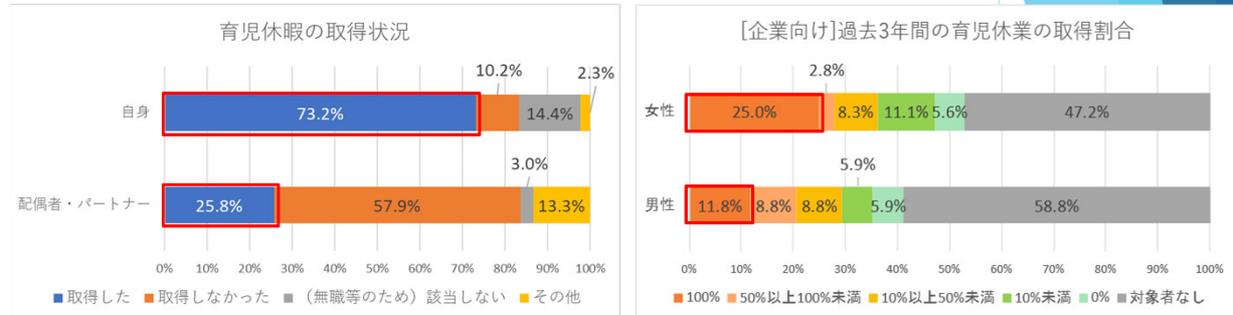
- ▶ 回答者の90.7%が共働きである。(全国平均68.5%)
- ▶ 1日当たりの実労働時間では、希望より長時間働かざるを得ない人が多く、希望と現実の乖離が見られる。

課題① 家事・育児役割の女性側への偏り(2)



- ▶ 家事時間で1時間以上の割合は、回答者は90.1%で、配偶者・パートナーは23.0%である。
- ▶ 育児時間で2時間以上の割合は、回答者は65.8%で、配偶者・パートナーは21.6%である。
- ▶ 家事・育児で1日の大半を費やし、余暇や睡眠が十分に取れていないだろう。

課題① 家事・育児役割の女性側への偏り(3)



- ▶ 育児休暇の取得状況では、回答者の73.2%が取得しているのに対して、配偶者・パートナーは25.8%である。
- ▶ 過去3年間の育児休業の取得割合では、女性の25.0%が100%取得しているのに対して、男性は11.8%である。

令和6年度 白山市の女性活躍推進に関わる実態分析報告

2025/3/24

21

課題② 労働時間と労働形態の柔軟性の低さ(1)



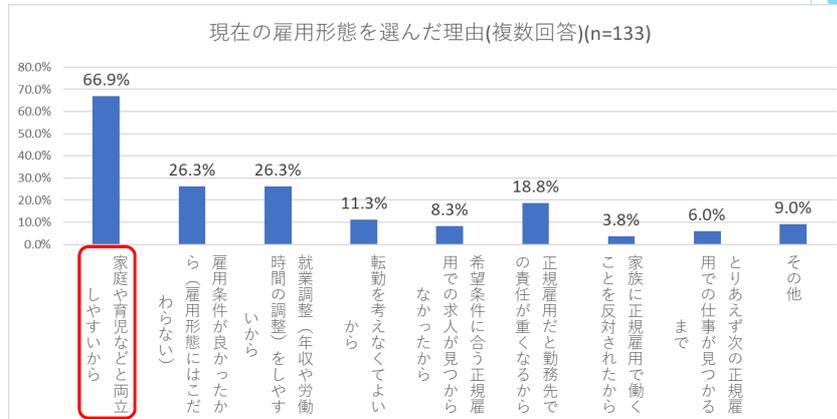
- ▶ 現在の就業形態で正規社員の割合は、回答者は54.4%で、配偶者・パートナーは78.0%である。
- ▶ パート・アルバイトの割合は、回答者は25.6%で、配偶者・パートナーは0.5%である。

令和6年度 白山市の女性活躍推進に関わる実態分析報告

2025/3/24

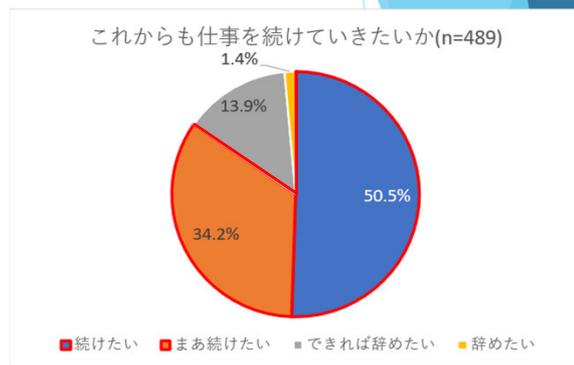
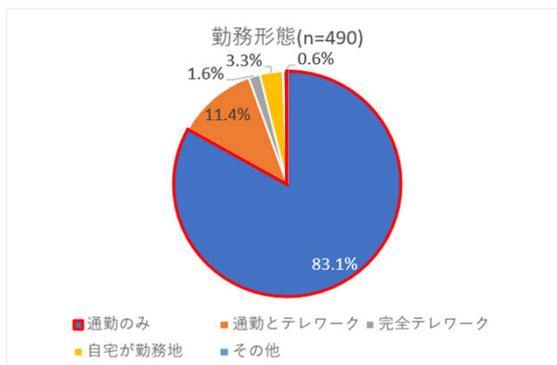
22

課題② 労働時間と労働形態の柔軟性の低さ(2)



- ▶ 現在、非正規雇用を選んだ理由では、「家庭や育児などと両立しやすいから」が66.9%で最も多い。

課題② 労働時間と労働形態の柔軟性の低さ(3)



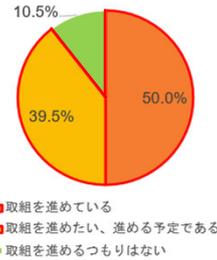
- ▶ 勤務形態では、「通勤のみ」が83.1%で最も多い。
- ▶ 「これからも仕事を続けたい」という意向は、84.7%を占める。

課題③ 女性が継続して社会で活躍する環境の未整備(1)

[企業向け]女性の継続就業に向けた取組を進めていこうと考えているか(n=36)



[企業向け]出産・子育てとの両立の支援に向けた取組を進めていこうと考えているか(n=38)



- ▶ 女性の継続就業については、「取組を進めている・進めたい」が合わせて86.1%を占める。
- ▶ 出産・子育てとの両立の支援については、「取組を進めている・進めたい」が合わせて89.5%を占める。

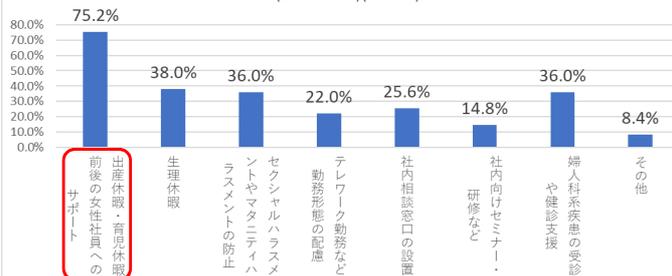
令和6年度 白山市の女性活躍推進に関わる実態分析報告

2025/3/24

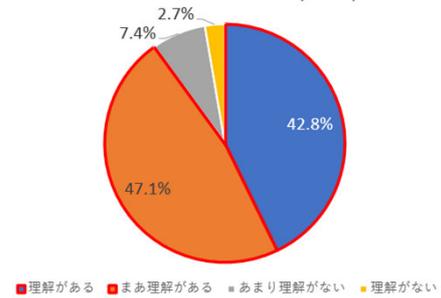
25

課題③ 女性が継続して社会で活躍する環境の未整備(2)

職場にある女性特有の健康課題に対するサポート・配慮
(複数回答)(n=250)



就業先の育児への理解度(n=488)



- ▶ 職場の女性特有の健康課題に対するサポート・配慮では、「出産休暇・育児休暇前後の女性社員へのサポート」が75.2%である。
- ▶ 「就業先は育児に理解がある」という回答は、90.0%を占める。
- ▶ 出産・育児休暇制度以外は不十分である。

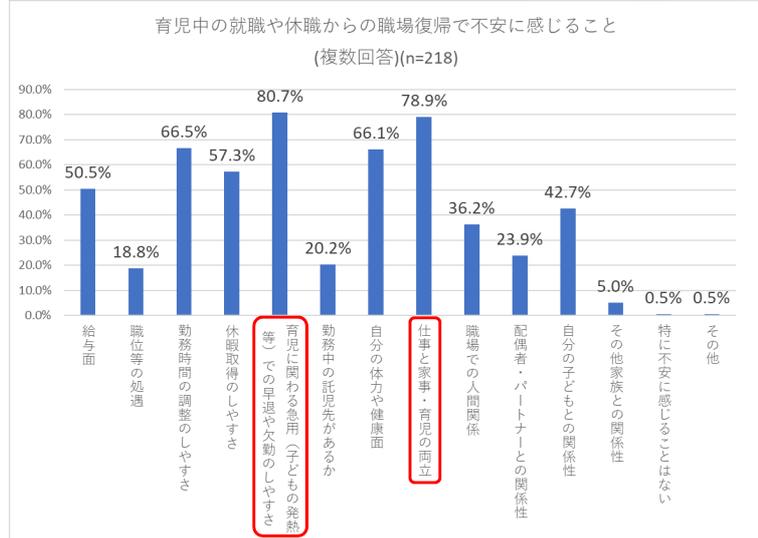
令和6年度 白山市の女性活躍推進に関わる実態分析報告

2025/3/24

26

課題③ 女性が継続して社会で活躍する環境の未整備(3)

- ▶ 育児中の就職・復帰で不安な点は、「急用での早退や欠勤のしやすさ」が80.7%で、「仕事と家事・育児の両立」が78.9%である。
- ▶ 仕事面のみではなく、家庭との関わりにおいて不安が大きい。



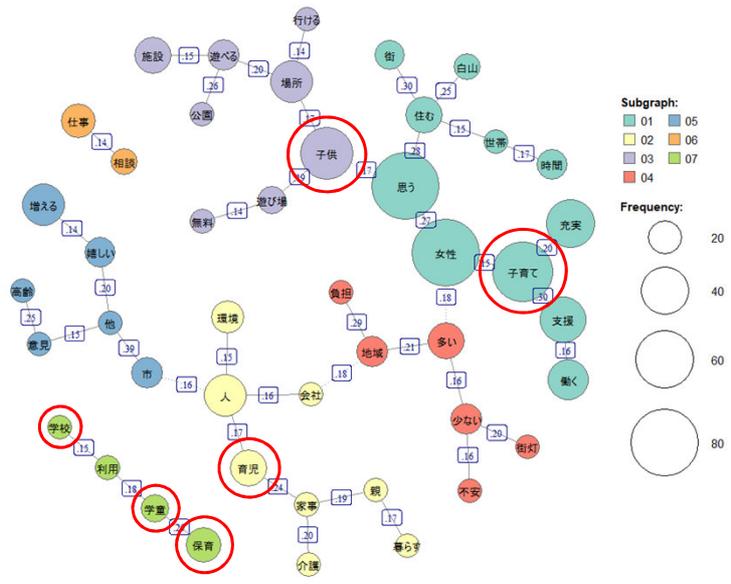
令和6年度 白山市の女性活躍推進に関わる実態分析報告

2025/3/24

27

自治体に期待すること(自由回答)

- ▶ 「子供の遊び場」、
「子育て支援の充実」、
「学童保育の充実」に関心が高い。
- ▶ 「子ども」に関する意見がどの側面にも現れている



令和6年度 白山市の女性活躍推進に関わる実態分析報告

2025/3/24

28

まとめ（白山市において女性活躍推進のために解消すべき3つの問題点）

課題① 家事・育児役割の女性への偏り

- ・女性の多くはおおよそフルタイムで働いており、家事と育児の役割が女性側に偏っている。
- ・家事と育児で1日の大半を費やし、自身の余暇や睡眠時間等が十分に取れない状態である。

課題② 労働時間と労働形態の柔軟性の低さ

- ・労働と家事・育児の両立のために非正規雇用を選択している女性が一定数いる。
- ・正規雇用では、テレワーク・在宅勤務等の柔軟な働き方が未成熟で家庭との両立は難しい。

課題③ 女性が継続して社会で活躍する環境の未整備

- ・女性が結婚・出産等といったライフイベントをきっかけに一時的に離職又は転職するケースは未だ見られる。
- ・仕事から離れることでキャリアは一度リセットされ、その後の給与面・スキル面で不利になる。
- ・地方都市においてはスキルアップやリスキリングによるキャリアアップの機会が少ないことが問題である。

まとめ：改善点や取り組むべきポイント

	1. Strengths（強み・有利な点）	2. Weaknesses（弱み・不利な点）	
内部環境 （地方）	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 生活コストの低さ ✓ 通勤の快適さ ✓ 自然環境の豊かさ ✓ コミュニティの支援 ✓ 育児支援の充実 ✓ 職場のストレスが少ない ✓ 地域イベントの多さ ✓ ワークライフバランスの向上 	<ul style="list-style-type: none"> ✗ 就職機会の少なさ ✗ 給与水準の低さ ✗ キャリアの選択肢の限界 ✗ 非正規雇用の多さ ✗ 起業の難しさ ✗ 地域の風習の影響 ✗ ジェンダーギャップの大きさ ✗ 育児と仕事の両立の難しさ 	
	外部環境	3. Opportunities（機会）	4. Threats（脅威）
		<ul style="list-style-type: none"> 🔗 リモートワークの普及 🔗 地方創生の流れ 🔗 地域産業の活用 🔗 副業・フリーランスの選択肢 🔗 女性向け支援制度の拡充 🔗 女性デジタル人材の就労機会拡充 🔗 リスキリング機会の拡充 	<ul style="list-style-type: none"> ⚠ 都市部との格差 ⚠ 出生率低下と人口減少 ⚠ 高齢化の加速 ⚠ 交通・インフラの課題 ⚠ 子育て・教育機会の偏り ⚠ 都市部とのネットワークの希薄さ ⚠ 地方から大都市への若者の流出